

「庁舎」と「(仮称)新福社会館」を『重ね合わせ』市民が主役となる『交流の場』をつくります



■敷地概要

計画地 : 小金井市中町三丁目
1957番5,7,9
小金井市緑町五丁目
1957番17
敷地面積 : 11,252.05㎡
用途地域 : 準工業地域
防火地域 : 準防火地域
高度地区 : 第2種高度地区
日影規制 : 4時間、2.5時間
建ぺい率 : 60%
容積率 : 200%

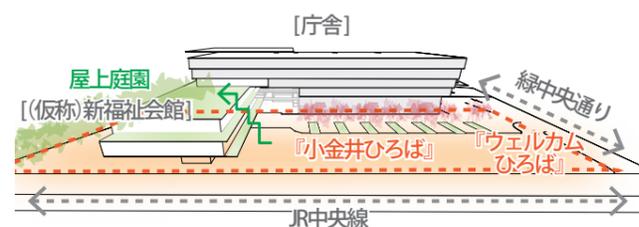
■建築計画概要

主要用途 : 庁舎、児童福祉施設等、集会場
建築面積 : 約3,900㎡
延床面積 : 約17,130㎡(地下階含む)
階数 : 地上6階、地下1階(庁舎)
地上3階((仮称)新福社会館)
構造 : 庁舎…鉄骨造(免震構造)
(仮称)新福社会館…鉄骨造(耐震構造)
最高高さ : 約27m
駐車台数 : 124台(地上62台、臨時駐車場23台、
地下39台)
駐輪台数 : 400台
概算費用 : 約84.4億円

※庁舎屋上部分に都防災無線の鉄塔(約20m)を設置する予定です。

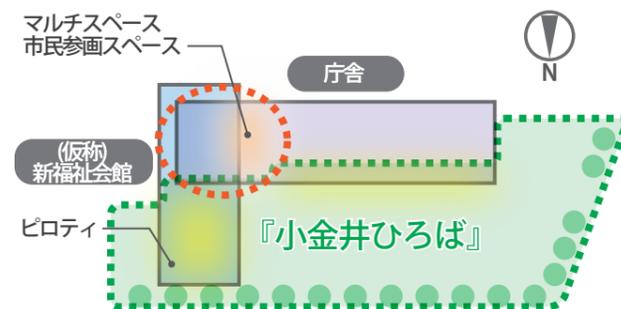
point 1 建物と一体となった立体的な『小金井ひろば』

- 敷地内に大きなスペースを創出し、さらに(仮称)新福社会館の屋上まで立体的に緑を繋ぎます。
- 既存の樹木も活かしながら、市民の憩いの場、交流の場となる『小金井ひろば』をつくります。



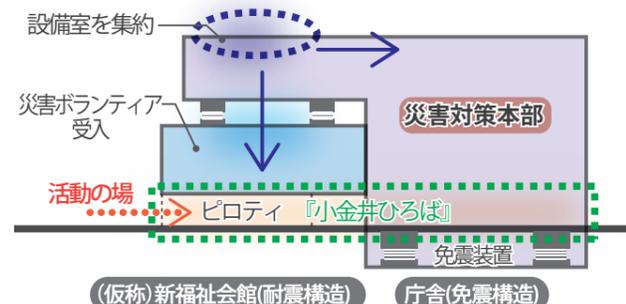
point 2 『重ね合わせ』することで生まれる交流の場

- 庁舎と(仮称)新福社会館の複合部分であるマルチスペース、吹抜けに面して市民活動スペースを配置することで、人と人が集う活動スペースが繋がり、両施設の相互利用が活性化します。



point 3 『防災の拠点』として、安全・安心の複合庁舎

- 災害対策の拠点となる庁舎は、発災後、速やかに活動できるよう免震構造を採用。災害ボランティアセンター等が設置される(仮称)新福社会館には雨に濡れずに活動できるピロティを設置し、防災の拠点として有機的に機能します。



point 4 循環型都市を目指して、環境にやさしい施設

- 小金井の自然を活用し、高効率設備の設置、運用により、快適で省エネルギーな環境にやさしい施設を目指します。

